



### 地域の概要

- ・博多湾の平均水深は10.8mであり、湾内は西部海域・中部海域・東部海域の3つに区分され、地形や潮流の特徴によって藻場や干潟が形成され、異なる生態系が広がっている。
- ・湾内（西部）は湾口が狭く、潮流が滞りやすいため、生活排水や産業排水が蓄積し、水質が悪化しやすい。
- ・福岡という都市と豊かな自然が共存する博多湾は、持続可能な未来を目指すための象徴的なフィールドと考えられる。
- ・多様な主体がそれぞれの視点で環境に対する取り組みの必要性を認識して単発の活動が進められている。

### 取り組みの実施体制・連携



博多湾  
福岡県福岡市



### R6年度モデル事業における取組内容および成果

#### 潜水調査・モニタリング

潜水回数59回・23地点



#### 【成果】

海の現状をとらえ効果的な保全活動のための啓発活動に向けてリアルな海中情報を得るとともに保全再生、経過観察を行った。

#### 連携体制構築・情報共有

連携活動 120回



#### 【成果】

多様な主体と連携した活動を年間を通して行った。それぞれの強みを生かしながら好循環が生まれる取り組みを企画し、共有・実施することができた。

#### 保全活動

藻場造成活動 21回



#### 【成果】

「アマモ場」造成のため、種子や苗の移植活動を様々な主体と共に行った。「ガラモ場」造成のため、スポアバックを使ったアカモク場造成を行った。

#### 環境学習・体験

啓発67回・啓発人数8255名



#### 【成果】

未就学児から高齢者までの多様な主体に向けて環境学習や体験・啓発活動を行った。都市部でも自然に触れ合える機会を多面的につくることができた。

### 今後の課題および取組方針

博多湾は浅い都市部の海であるため人々の経済活動による影響を受けやすい。多様な主体がそれぞれの視点で環境の変化に気づき、保全のための取り組みを始めているものの、連携活動は情報共有や単一の活動に留まっているため、**継続的な連携や知見の共有をより密に行えるような関係づくり**が必要となる。モニタリングや調査の結果を有効活用し、より効率的な保全活動に繋げていくために連携を強化するため相互理解が生まれる場づくりを引き続き行いながら、多くの人や企業が関わることができる里海づくり、そのための情報発信やビジネス創造をおこなっていく。